

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

③国内外の大学との単位互換協定やダブル・ディグリー等による教育課程の充実

《理工農系》

●茨城大学農学研究科

「地域サステナビリティの実践農学教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

連携先であるインドネシアの大学との実習科目(科目名、「熱帯農業フィールド実習」、「グループ課題演習」)の構築、共同実施、双方での単位化を行った。なお、茨城大学はプログラム開始時に、また、連携先は本プログラム終了時に単位化を行った。本プログラム支援終了後、その成果を連携先大学とのダブルディグリー構築に展開した。平成22年度は、両方でダブルディグリー・プログラムの内容構成、実施体制、学生支援体制をまとめた。平成23年度前期中に両大学で覚書を交わし、早ければ、後期から実施出来るように調整中である。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

海外実習や演習科目の運用では、その内容設計や実施体制の整備に関して、大学間で多くの議論を行った。また、実施時には学生ケアに関して特に考慮した。ダブルディグリー・プログラム構築では、両大学における履修システムや学位授与基準の違いを精査し、双方の大学にとって実現可能なプログラムの設計に多くの時間をかけた。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

本プログラムを履修した学生のアンケート結果からは、①国際的なコミュニケーション能力の向上、②国際的なチーム作業能力の獲得、③現場での体験から生じる「アジアの熱帯農業と環境」に関する課題意識の向上、という成果が得られた。また、その成果を踏まえて、十分な議論を双方で重ねながらダブルディグリー・プログラムの構築に至ろうとしている点が大きな成果である。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

●茨城大学農学研究科

「地域サステナビリティの実践農学教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

国内でのフィールド実習科目（「地域づくりフィールド実習」）に加えて、連携先であるインドネシアの大学において、「熱帯農業フィールド実習」、「グループ課題演習」を共同実施した。海外実習では、日本の稲作農業との違いを現場で人々との会話を通して学ばせた。また、演習では、本学と連携先大学との混成学生チームを作って、アジアの農業と環境に関する課題設定、文献調査、調査結果の発表を行わせた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

海外実習や演習科目の運用では、その内容設計や実施体制の整備に関して、本学と連携先大学間で多くの議論を行った。また、実施時には学生ケアに関して特に考慮した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

先にも述べたが、本プログラムを履修した学生のアンケート結果からは、①国際的なコミュニケーション能力の向上、②国際的なチーム作業能力の獲得、③現場での体験から生じる「アジアの熱帯農業と環境」に関する課題意識の向上、という成果が得られた。この成果はフィールド実習と演習の結果に負うところが大きい。